

# ほっこりとお日さまのにおいがする ジュピのえんがわ

## 子供と大人が一緒に過ごせる拠点

十五年前この富岡地区に引っ越してきた代表の高橋さんは元々隣町の並木地区で青少年指導員として活動していました。当時の経験から子供に関するトラブルのほとんどは、子供と他の世代のコミュニケーション不足が原因だということをも感じていました。「子供たちが集える場所がほしい」、「地域で何かやりたい」、「子供と大人と一緒に過ごせる拠点を作りたい。」そのような気持ちには日に日に大きくなっていききました。そこで、手作り品や駄菓子を扱うお店をつくりました。店名は当時飼って

いた犬の名前から「ジュピの店」と名付けました。

駄菓子の魅力に引かれて、多くの子供が集まるようになりました。しかし、ジュピの店には多くの人が集まるようなスペースはなく、当初思い描いていたコミュニケーションの場にはなりませんでした。

そんな時、近くに空き家があることを聞きつけました。その空き家は縁側のある落ち着いた空間で、高橋さんの思い描いていた通りの場所でした。

ほっこりとお日さまのにおいがする・・・富岡サロン



▲メンバーの西田さんが作成したロゴ

## 金

沢区の北部、区を縦断する国道十六号線から少し離れた静かな住宅地の中に、富岡サロン「ジュピのえんがわ」があります。ここは駄菓子屋とサロンが併設され、子供と大人と一緒に過ごし、自然に交流できる場所を目指した拠点です。

▲ジュピのえんがわの外観



- 1 昔懐かしい駄菓子やさん
- 2 ほっとするえんがわ
- 3 「えんがわ」を支えます
- 4 ぬくもりのある看板
- 5 店内を飾る手作り品

た。しかし老朽化が激しく、拠点として使用するには内装の改修が必要です。資金の確保という大きな壁が立ちふさがったのです。

## 区役所と所有者の支援

改修をするための費用をどうするか、周りの様々な人たちに相談しました。その時に出会ったのが、空き家等を地域交流に活用するための活動やハード整備に助成を行う、金沢区役所地域振興課の「茶の間支援事業」でした。ジュピの店を支えるメンバーは建築や工事の知識が全くありませんでしたが、改修工事については区役所職員がたびたびアドバイスをしてくれました。さらに建築士である空き家の大家さんにも、工事の立会いなど様々な場面で助けてもらいました。みんなの力を合わせて開設した拠点は「ジュピのえんがわ」という名前を

付けて、平成二十八年三月にオープンすることができました。

オープン当初、拠点に訪れるのは事務局や知り合いのボランティアの方がほとんどでした。しかし、様々なイベントを行うことで徐々に認められるようになり、当初あまり来てくれることがなかった近隣住民も多く拠点に来てもらえるようになりました。秋に行ったハロウィンイベントでは、近隣から六十人もの親子が参加しました。富岡東地域ケアプラザとの連携なども功を奏して、高齢の方を含めた活動の広がりを確かに感じています。

## 居心地のいい拠点を 目指して

さらなるステップアップのために、新しい活動を始めていきます。地域のニーズに対応できるように、困ったことをお手伝いする有償ボランティア「お助け隊」を始めました。

子育て世代にももっと拠点を知ってもらうため、子供向けイベントも積極的に行う予定です。

新たな取組を行うことで、担い手の発掘を進め、活動の広がりを見据えながら、今以上に多世代の人たちが交流できる居心地のいい拠点を目指して、今後もジュピのえんがわを中心に活動を進めていきます。

## 担当者からの声

当支援事業としては初の住宅を活用した取組でした。建物の改装や、用途地域の範囲内で可能な取組の模索、地域を巻き込んだ事業展開など、活動に携わる職員も勉強になる活動です。

金沢区地域振興課地域力推進担当

## 金沢区空き家等を活用した 地域の「茶の間」支援事業

空き家、空き店舗等を活用して行う、多世代交流、子育て支援、健康づくり講座、高齢者のサロン等、地域の活性化に向けた取組を支援します。

# 夢が実現できる場をつくりたくて

## 「コミュニティだんだん

誰もがいつでも集える  
場所に

拠点を運営する「NPO 法人だんだんの樹」は、平成十二年介護保険制度が開始された年に、ホームヘルパー資格を取得した主婦が集まり、「まずできる事から動いてみよう。」とボランティア活動を開始したことがきっかけで設立、その後地域で介護保険事業に取り組んできました。活動当初から自分たちの目的や組織を明確にしてきたことが、地域の皆さんの理解につながったと担当マネジャーの丹羽さんは振り返ります。また、介護保険事業と並行してボランティア活動を行い、近くの施設を借りて高齢者サロンを開いていました。その

経験から地域の高齢者がいつでも集える場所をつくりたいと思い、横浜市健康福祉局の補助事業である「地域福祉・交流拠点整備事業（※1）」に申請、サロンの場所になりそうな空き店舗を探し、拠点開設の準備を進めました。一年以上をかけてどんな居場所を作りたいのか話し合いを重ね、「目指す姿のあり方を共有」したり、地域の方に理解・協力をお願いしたり、様々な研修・講座に参加し「生活習慣病予



(※1) 地域福祉・交流拠点整備事業は平成二十九年度から介護予防交流拠点整備事業に変更されました。

**泉** 区弥生台にある「コミュニティだんだん」は、相鉄線弥生台駅から歩いて五分程度、大通りに面した素敵なカフェです。お店の中を覗いてみると「よくいらつしやいました。さあどうぞ中へ。」と笑顔でスタッフさんが迎えてくれる、そんな温かい場所です。

▲コミュニティだんだん入口



5



4



2



1

- 1 コミュニティだんだんの皆さん
- 2 キッチンを支えるボランティアさん
- 3 カフェは笑顔であふれています
- 4 提案された企画はまずやってみます
- 5 地域の人からの差し入れ



4



3



1

防運動・要介護予防運動指導者」等の様々な資格を多く取得しました。このようにして、利用する方々や事業に賛同してくださる方々に、目的に合った内容を提供できるように準備を重ね、「コミュニティだんだん」をオープンすることができました。

### 「まずやってみよう」の精神

みんなの居場所として「コミュニティだんだん」を平成二十八年二月にオープンし、その結果さらに地域との関わりが密なものとなり、地区社会福祉協議会、地域ケアプラザ等との共催事業も行うようになりました。脳いきいき教室、転倒予防教室、音楽療法、朗読の会、音楽会、夢クックや夢カフェのランチ等の提供、こども食堂、学習応援、スタンドバル、折り紙や布遊びなど、こんなことをやりたいという方からの提案に「まずやってみよう」の精神で応

えて事業化してきました。

年はとってもまだまだ元気な何か活動したいと思ってる人、自由に使える時間が増えてワクワクしている人が、役割を持って生き生きと楽しく活動する場になっていて、「地域の方が主役となって活躍できる場をつくる」「助け合い支え合う地域を目指した風土づくり」「健康寿命を延ばす」というコミュニティだんだんの目指す姿に近づいています。応援してくれた周囲の協力のおかげもあり、最初の一年で延べ七千人もの利用者、千人余のボランティアが関わりました。

さらに次のステップとして、これから拠点を作りたいという人へのサポート応援とともに、そこに集まる人たちが生き生きと活躍できる居場所を継続運営していけるよう、共に考えながら活動していきたいと、より良い地域づくりを目指しています。

### 介護予防交流拠点整備事業

介護予防や、健康の維持増進、閉じこもりを防止することを目的に高齢者が集うサロン等の整備を支援し、介護予防・生活支援につながる活動を推進するため、商店街の空き店舗などを活用した拠点等の施設整備費等を対象とする補助事業です。

### 泉区地域福祉保健計画

泉区では「支え合い・助け合いが活きる！元氣のふるまち泉」を基本理念として、地区ごとに地域主体の取組を進めていく「地区別計画」と、区域に共通する課題解決に向けた取組を進める「区計画」の2つに沿った取組を進めています。

「コミュニティだんだん」のある中川地区では「近所で助け合えるまちを目指して」を基本理念に地区別計画を進めています。

### 担当者からの声

ちょっと目を離していると、次々と新しい取組が始まっていて、いつも驚かされています。自分たちの思いと地域の方々の思いを繋いで実現できる、暖かい居場所になっています。

泉区福祉保健課